

西日本豪雨の被害に遭われた人々が  
一日でも早く日常の生活に戻れますように――

特集①

# 西日本豪雨災害の記録

6月28日以降の台風第7号や梅雨前線の影響で、西日本を中心に広い範囲で発生した豪雨は7月9日、「平成30年7月豪雨」と命名されました。

被害が集中した7月6・7の両日には高知県馬路村の降雨量が1000ミリを越すなど、記録的な豪雨――。全国で死者220人、行方不明者9人、住宅被害の全壊が3671棟、床上浸水1万4412棟など、平成で最悪の被害となっていました。（数字は7月29日の消防庁ホームページを参照）

内子町でも山間部を中心に、生活道路や橋の流失、河川の氾濫や土砂崩れなど大きな被害を受けました。幸いにも人的被害はありませんでしたが、各地には今も大きな傷痕が残されています。町では復旧に全力を尽くすとともに、大洲市の支援を行うなど、多くの人が早く日常を取り戻せるよう努めています。

今回の特集では、この経験を未来の防災に生かせるよう、被害の状況や災害対応について振り返ります。





8



9



7



10



13



12



11



1

# 猛威をふるった 2018.7.6-7.7

## Photo report 集中豪雨の記録

愛媛県内に甚大な被害をもたらした「平成30年7月豪雨」——。内子町に残された傷痕を写真で伝えます。



6



3



2



5



4

7\_ 6日7時頃の379号線・長岡山トンネル手前（内子側）の様子。山から流れ出た大量の雨水が道をふさいだ 8\_ 橋に引っ掛かった大木。程内地区では生活用の橋が、いくつも流失した 9\_ 7日は麓川や中山川周辺が大雨。河川が合流する大岡地区では水があふれ、床下浸水などの被害が出た 10\_ 7日には小田川が避難判断水位の3.5mを越え、知清橋下流の住民に避難指示を発令 11\_ 土砂崩れで倒壊した家屋。幸い人的被害はなかった 12、13\_ 程内地区の主要道路・県道池田中山線が濁流に削られ、全面通行止めになった

1\_ 7月6日の明け方に降った大雨で大瀬・鵜川地区の鵜川が増水。護岸が崩れて基礎の一部を流失した家屋 2\_ 各地で土砂崩れが発生。多数の道路が通行できない状態になった（写真は農道五百木線の崩落現場） 3\_ 掛木地区の掛木天満宮。法面は崩れたが建物の崩落は免れた 4\_ 鵜川が増水で倒壊した建物。車庫にしていたので人的被害はなかったが、車はつぶされた 5\_ 増水で床上浸水した住宅。フェンスに張り付いた草などで、かなりの水が流れていたことがわかる 6\_ 小田川上流域の様子。ものすごい勢いで水が流れていた





和田自治会長  
中尾 秀信さん

## 避難場所の選択は臨機応変に

大雨のときに和田自治会館が、避難所になるのかどうか心配していました。4月頃に避難のことを地域の徳林寺と常楽寺に相談したところ、「避難所にしていい」と快諾をもらえました。7月20日の防災学習会で周知するはずでしたが、7月6日の大雨――。

その日は午前5時頃に川の音で目が覚めたので外を確認すると、和田自治会館周辺が氾濫しかけていました。事務局長らと協議して避難場所を寺に変更。自治会の防災無線で周知し、役場に連絡しました。

すぐに決断できたので、事前に寺と相談しておいてよかったです。自分や家族の安全のため、日頃から避難場所や避難方法を考えなければと実感しました。



和田自治会館に大量の水が流れ込んだ

# 記憶と記録を 未来の防災の第一歩に――

死者が200人を超えるなど、平成で最悪の豪雨災害を経験した私たち。内子町では幸い人的被害はありませんでしたが、愛媛県内では26人が亡くなりました。今回の苦い経験を未来の防災につなげるために、災害状況などを振り返ります。



内子町消防団  
団長 篠崎耕太郎さん

## 災害で学んだことを忘れず 改めて万全の備えを――

今回の災害では河川の氾濫や土砂崩れ、住宅への浸水などの被害が広範囲にわたって発生しました。消防団員は2日間で、延べ1046人の団員が出動。各地で土のう作りや水門の管理、避難誘導などに当たりました。

災害対策本部では災害発生当初から各機関や団員との連携を密にし、情報伝達や現場対応を迅速にすることを心掛けました。大きな爪痕は残りましたが、人的被害がなかったことが幸いです。

災害対応で課題と感じたのは、避難の促し方です。避難指示が出た場合は人的被害の可能性が高まっているため、団員が避難を促しますが、説得に時間が掛かる

ことがあるようです。皆さんの安全・安心を守る団員もまた、安全に活動しなければいけません。そのために住民の皆さんの速やかな避難行動をお願いします。

最近の異常気象では、いつどこで大きな被害が起こってもおかしくありません。昨年は9月に大雨が降りました。今後も大雨や台風には警戒が必要です。災害で学んだことを忘れず、全ての住民が自分の命を守るよう、万全の備えをしてほしいです。



水門を開める内子町消防団五十崎方面隊。被害を最小限にするため各方面隊がさまざまな活動を行った



多数の被害状況が寄せられた災害対策本部。各機関と連携し、24時間体制で確認や対応にあたった

## 時系列で振り返る災害状況

### 7月6日

5時55分 土砂災害警戒情報発表、災害対策本部第2次配備、町内各地から冠水情報などが入り始める  
6時21分 消防団待機命令  
6時40分 大久保地区が孤立  
6時41分 大瀬瀬川で洪水発生  
7時20分 内子町内全域に避難勧告を発令

### 7月7日

7時49分 消防団出動依頼  
7時50分 五十崎地域の水門全閉  
8時00分 災害対策本部を第3次配備に移行、多数の被害発生の報告が寄せられる  
9時35分 和田地区などで土砂崩れなど多数  
11時15分 大瀬方面が広範囲にわたり停電  
13時24分 国交省災害対策現地情報連絡員派遣  
19時00分 消防団解散  
7月7日 立川地域などで広範囲にわたり停電  
3時00分 消防団待機命令  
4時04分 給食センター付近で洪水  
5時07分 消防団出動依頼  
5時40分 大岡製作所付近の田んぼ

が冠水

### 6時00分

### 6時30分

### 6時55分

### 7時44分

### 7時45分

### 7時46分

### 8時15分

### 8時35分

### 9時00分

### 10時30分

### 10時50分

### 11時25分

### 15時00分

### 7月8日

### 7月9日

### 6時05分

### 6時30分

### 6時51分

土砂災害警戒解除  
全ての地域の避難勧告を解除・全避難所を閉鎖  
大雨警報解除、災害対策本部解散

消防団解散、土砂災害警戒情報発表継続中  
警報継続

内子双海線通行止解除  
知清橋通行止解除、避難指示から避難勧告へ移行  
立川自治会グラウンドが浸水

三坂峠付近・国道33号通行止  
川登地区付近・国道379号線通行止  
上尾峠付近・国道379号通行止

知清橋下流沿岸の住民に避難指示発令  
宿茂付近・国道56号線通行止、内子双海線通行止  
知清橋通行止

城廻地区で床上浸水の被害  
東自治センター付近増水のため避難所閉鎖。うちこ福祉館へ誘導

東大洲付近・国道56号線通行止  
知清橋下流沿岸の住民に避難指示発令  
宿茂付近・国道56号線通行止、内子双海線通行止  
知清橋通行止

城廻地区で床上浸水の被害  
東自治センター付近増水のため避難所閉鎖。うちこ福祉館へ誘導

## り災証明・被災証明

ご存じですか？

被災したら支援金の支給や保険金の申請などのために、り災証明や被災証明が必要になります。今回の災害で、家屋や建物、家財、車などに被害があった人は、総務課にお知らせください。被災した場合は、被害状況を写真で記録を撮るようにしてください。家屋の場合は調査が必要ですので、早めにお問い合わせください。

【問い合わせ】総務課 0893(44)6150

もう一度確認を！

## 災害時の情報収集の方法

災害情報は町内放送の他、NHKデータ通信放送やエリアメールなどで発信しています。今回の災害時、町内放送が聞こえなかったという人は、メール配信サービスをご登録ください。31年度から戸別受信機の無償貸し出しも予定しています。必要な人は25ページのお知らせをご覧ください。

メール配信サービスの登録へ→

